



## ◎ 本国体に向けて好発進!

本年度の九州ブロック国体における、本県の代表権獲得数は「65」であり、昨年度から5減という結果となった。加えて、国体において高い競技得点を獲得するためには、九州ブロック国体での上位通過が望まれたが、本年度の「1位」通過数は昨年より7減という結果であった。(表1参照)

この結果から、平成最後となる『福井しあわせ元気国体』では、非常に厳しい戦いになることを予想していた。

しかしながら、9日に開幕した会期前競技大会において、競泳やクレール射撃、ビーチバレー選手団の活躍により、第73回冬季国体の獲得点を合わせると、250.5点となり、現在、天皇杯順位で11位につけている(表2参照)。

この250.5点は、過去4年間では、最後に8位入賞を果たしたH27和歌山国体時(277点)に次ぐ成績であり、「平成最後の本国体」に向けて、本県選手団は好発進したと言える。

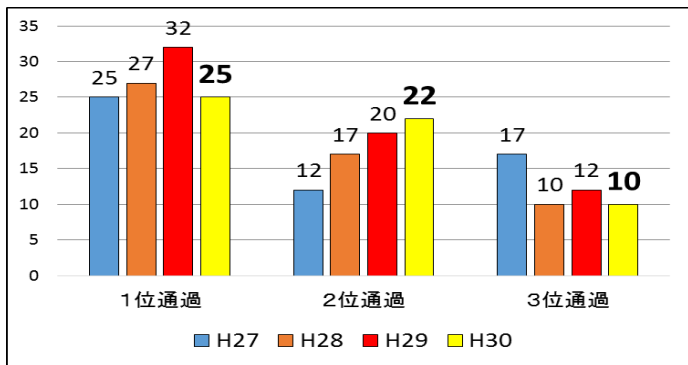


表1【九州ブロック大会上位通過数の推移】

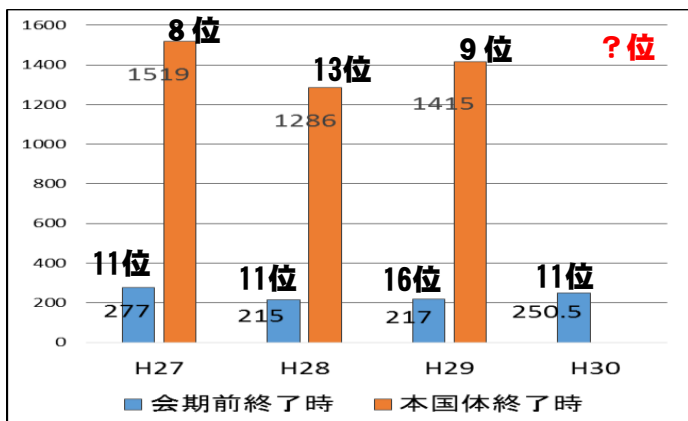


表2【会期前終了時点と国体終了時の得点・順位の推移】



## ◎ 今後の順位変動の動向について

過去のデータから、今後の順位変動の予測について述べる。

- 冬季競技が得意な県は、今後の本大会において得点をなかなか伸ばせないのではないか。
- 近年、国体を開催した県の現在の順位は、愛媛県29位(153点)・岩手県16位(210点)・和歌山県38位(97点)・長崎県45位(73点)と、継続した強化が難しく、上位入賞は難しいのではないか。
- 昨年の天皇杯8位入賞を果たした千葉県は、現在14位(218.5点)であるが、必ず上位にくるであろう。
- 来年の開催県である茨城県が現在24位(159点)、また、再来年の開催県である鹿児島県が現在28位(155点)であるが、両県ともに強固な強化体制をとっているはずであり、これから順位を上げてくるであろう。

### 天皇杯順位一覧

順位	都道府県名	競技得点
1	東京	688.5
2	長野	528.0
3	北海道	495.0
4	神奈川	477.5
5	埼玉	425.0
6	愛知	380.0
7	大阪	366.0
8	福井	309.5
9	兵庫	288.0
10	新潟	282.0
11	福岡	250.5
14	千葉	218.5
24	茨城	159.0

\* 9月17日終了時点のもの

国体の情報については、大会ホームページ (<http://fukui2018.pref.fukui.lg.jp/>) より、ご覧ください。  
※Facebookにおいても情報発信を行っています。「ふくおかスポネット」で検索してご覧ください。

【発信元】福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ推進課 企画情報係